

ヨウ素試薬を利用する合成化学とフロー化学



目で見る
海外講師講演会

藤岡弘道*

Iodine Reagents in Synthesis and Flow Chemistry

Key Words : chiral iodine reagent, cyclization, flow chemistry

「Thomas Wirth 教授特別講演会」

Special lecture by Professor Thomas Wirth

<講師>

英国 Cardiff 大学教授

Dr. Thomas Wirth

2016年5月18日に「Thomas Wirth 教授特別講演会」を、大阪大学大学院薬学研究科にて開催した。Wirth 教授は日本人の奥様を持つ大の親日家であり、以前からの知り合いである。Wirth 教授は非常にアクティブに研究を展開されているが、今回、岐阜で開催される第13回セレン・テルル化学国際会議出席のため来日されたのを機に、最近の研究についての講演を行っていただいた。

講演に先立ち、当研究室の個々の学生が自身の研究を Wirth 教授に英語で紹介し、お互いに英語でディスカッションする貴重な機会を約2時間持つことが出来た。その後に Wirth 教授に「Iodine Reagents in Synthesis and Flow Chemistry」のタイトルで講演を行っていただいた。内容は、光学活性なヨウ素試薬を用いる不斉環化反応とその応用としての簡便生物活性化合物合成ならびにフロー化学を利用した新規反応の開発である。参加者は、教職員・学生を合わせて42名であった。不斉環化反応は Wirth 教授独自のユニークな考えを用いてヨウ素試薬を巧み

に操作し、多くの光学活性化合物を高い光学純度で与えており、非常に興味深かった。またフロー化学で紹介された反応はいずれも実用性の高い効率的な反応であり、中でも酵素をフロー系に用いる実験は斬新であった。フロー合成は克服すべき問題点があるものの、年々確実に進歩している。フロー合成で製造される市販試薬の割合が年々上昇していることは正にこの合成法の高い将来性を示していると言えよう。講演後には、活発な質疑応答がなされ、約1時間40分で講演会を終了した。

最後になりましたが、本特別講演の開催に当たり、生産技術振興協会の海外講師講演会奨励事業からの多大なご支援を頂きました。ここに記して、厚く御礼を申し上げます。



講演風景



Dr. Thomas Wirth

1964年8月生

Cardiff University, UK

School of Chemistry,

Wirth Research Group

Professor Ph D 有機合成化学

E-mail : WirthT@cardiff.ac.uk



講演者と出席者の合同写真

*講演会主催者 大阪大学大学院 薬学研究科 教授